

# 光明禅寺

第520号

令和八年一月

現在に活きる  
仙の教え

事を行うにあたって、いつから始めようかなどと考えているときには、おでに遅れをとっているのだ。

他人の癖ほど、直したいと思わせるものはない。

また何かあったら、すぐ連絡して、夜中でも駆けつけるから、  
(仏さまの言葉)

男は船。いろんな港に入る。

女は港。いろんな船が入ってくる。

そういうものよ。

電話 21 4127 (21回線)  
4571 090 7981 9123  
FAX 24 3519

(県・市文化財指定安葬所)  
〒917-0002 指宿市十町南迫田二七六八

## 一月の行事

一 転大般若会祈願・修正会

一 二日 朝六時

一 曉天竺禅会

初二日曜(十一日) 朝六時  
初四日曜(二十日) 朝六時

一 地藏尊・水子供養

二十四日 二時

謹んで新春のお慶びを  
申し上げます

旧年中は大変お世話様になり  
心よりお礼申し上げます

本年が皆様にとりまして、良き  
年でありますよう

心よりお祈り申し上げます

本年もよろしくお願いいたします

令和八年 元旦

住 野口良雄

々 御援助 助 薄 々

園田隼人様 お花代を頂きまし

皆様方にお知らせ致します

有難うござい

お知らせ

今年も一月九日 長島町平尾

結昭彦様に 朝六時頃 家を出て

成道会のお手伝いに行きます

お寺の方は 不在とあります 帰り着

くのは 夕方五時頃とあります

命日・年忌等がある場合は 前もって

早めに連絡を下さいますように

感謝と祈り

新年おめでとうございます

ただ今ご本尊様に新年のお参り

をさせていただきました

本年も皆さま方ご健勝で、よい年で

ありますようにお祈り申し上げます

新年とは、暦が帰るとともに、もの

みな改まる時であります。そうした

めでたい時に当たり、仏様に感謝し



世界と一家の平安を祈ることは尊  
いことです。祈りというのば、心に方  
向付けをすることです。平和であつて  
欲しい、幸せであつてほしいという祈  
りによって、人もまた祈りの心に引転  
されていくわけであります。

### 小林一茶の

めでたさも中ぐらいいなり俺らがばる  
は、有名です。年寄りになつてみると  
正月になつたからうといつて特別めでたい  
ことがあるわけでもないし、とにかく昨年  
も無事に過ぎして、こうして新年を  
迎えられて有り難いことだ、というよう  
な、落ち着いた老人の心境を読んだ  
ものです。

清水径子という人は、

何をもて新年という田の鴉からす

と詠んでいます。

カラスは不吉な鳥というけれど、正月  
だつてもいつもと変わらぬ、田圃で日  
常のままに遊んでいるじゃありませんか。  
正月だつて、平生と何ら変わらぬこ  
とではありませんか、という意味です。  
いつもと変わらぬ平らな日常が一番  
平和です。そこに「正月」という節目  
をつけ、「祈り」と「感謝」という心で、  
神仏の恵みや、喜びを輝かせていくのが  
お正月かと思ひます。

井原西鶴は「日本永代蔵」で、こ  
ういふことをいっています。

天道いわずして国土に恵み多し  
人は実あつて偽りおとし

天地自然は、何も言わないうで多く  
のものを人間に恵んでくれている。

人間は誠実な心もあるけれども、嘘  
も多い。気をつけたいものです。

「法華經」宝塔品に、  
娑婆世界すなわち變じて清淨なり  
といひます。

お正月を契機にいたしまして、平和を  
祈り、感謝いたしたいものであります。

## 生命の尊さ

「一年の計は元旦にあり」古来、禪  
僧は元旦に「遺偈」を作成するを心  
得とします。なうば、怪我の功名、いた  
ずらに痛さに震え苦しむよりも、「災  
い転じて福となさん」がために、み仏が私  
に与えて下さった試練と有り難く、  
受け止め、「命」を静かに考えてみ  
まうよう。人は、この世に生をいただき、  
歳月を送る時、諸々の喜びや悲し  
みに出会います。それは予告なく突  
然に起こります。そして、それは時

として生命を簡単に奪い去ります。  
私たちは、日頃健康である時は、身は  
見え、身は聞こえて当たり前、自分の  
意志により、手や足が自由自在に動  
くことに、それほど有り難さを感じて  
いません。

ひとたびことが起こると、人間の五体に  
おいて、何一つ無駄なものはなく、肉体  
の不思議と、生命の尊さを知らざる  
れ、「生かされている自己」に気づい  
た時、おのれの生命のみならず、生  
きとし生けるすべての生命に「畏  
敬の念心」をもち、今あること、無  
上の言ひと感謝する心を再度  
こ心れてはならないと、新年を迎  
えて改めて自覚したいと思ひます。